

令和３年度 稲沢市地域自立支援協議会 第１回地域生活支援部会 議事要旨

[日 時] 令和３年５月２７日（木）午後２時～午後３時

[場 所] 稲沢市役所 第１分庁舎 ２階 第３会議室

[出席者] 地域生活支援部会委員８人、事務局３人

[欠席者] 地域生活支援部会委員２人

[議 事]

１ 協議事項

(１) 今年度の課題について

- 昨年度までの協議内容を、会議報告により説明（事務局）
- 地域自立支援協議会の全体図を資料で配布した。この部会は地域生活支援部会で、他に就労支援部会と権利擁護推進部会がある。ここでは地域生活に関することを検討していく。作業部会では、さらに細かく専門的に話し合い協議する。医療的ケアネットワーク会議と地域生活支援拠点、新たに障害児支援に関することを位置付けている。地域生活支援部会は議題が多く部会で議論し尽くせない。課題ごとに作業部会で話し合ったことを部会で報告し、どうしていくか協議する。各部会長は運営会議で報告し意見があれば持ち帰り部会で検討する。部会で決められないことは運営会議に上げて諮る。今年度も全体図に沿って進めていく。他にも左側の連絡会がありそこから課題があがる。一番課題が多くて大変だが協力をお願いしたい。
- 作業部会にどなたに入っていただくか決めさせていただく。課題は大きく４つあるが昨年３つの作業部会で一杯だったので、災害時の対応等についてはこの部会の中で検討していきたい。あとの３つは作業部会で主に検討していく。
- 医ケア児支援ネットワーク会議は、市民病院の訪問看護師さんが巡回し、医ケア児が地域の保育園や学校へ通える仕組みづくりのために取り組んでいる。子どもが通える体制と、コーディネータが活動できる場、災害に備えた体制づくりの３つに取り組む。昨年度は日比野副部会長が中心で進めていただいた。
- 地域生活支援拠点整備は緊急時の体制づくりとそれに向けての体験の機会、仕組みづくりを中心に進める。緊急時はだいたい昨年までやったので、今年度は体験と緊急時の検証になると思われる。
- 障害児支援に関する作業部会は、子ども部会が立ち上がらなかったなので、作業部会でやっていく。サポートブックを見直したのでどう活用するか、児童発達支援センターに向けてどういったセンターが良いのかということ部会で御意見をいただく。
- 地域のニーズから部会で取り組む内容が決まるので、これから新たな課題が増えることもある。大まかな方向性を決めて今日は終了したい。そのまま掘り下げることを期待して、あまり変わらないメンバーとなっているので、作業部会も同じように考えている。
- 医ケア児支援ネットワークは日比野副部会長がリーダーで、脇田委員、伊藤委員、田中

委員にお願いしたい。拠点整備は、森川委員がリーダーで、加納委員、服部委員にお願いしたい。障害児支援については、濱野委員がリーダーで、岡島委員、2つ目になるが、伊藤委員、田中委員、日比野委員にもお願いしたい。部会長はすべて参加させていただき、リーダーが欠席の場合には対応させていただきたい。作業部会は委員だけでなく、他のかたも交えて行っている。

○参加するにあたり、位置づけがあいまいのままだと参加の仕方が分からないので、前回会議から聞いていたが最終的に議論して部会で協議し、その後どういう形になっていくのか。提案になるか、どうなのか。

○提言になる。話し合った結果に関して運営会議や本会議で話をして、決まれば協議会が市へ提言することになる。市はそれをもとに施策を考える。

○具体的にシステムを考える必要はなく、問題とか要望とかを整理して提言していけばよいということか。

○システムについても厚労省から出ている体制や、医ケア児支援ネットネットワークなどは国で決められた物もあるので仕組みをつくることもある。

○協議会の役割は市に提言する部分と、市として拠点整備とか計画策定という事に関して協議していただく部分もある。つまりは提言とシステム構築の2つの面がある。個別支援会議で課題があがり、課題解決に向けてシステム構築する協議体になる。解決するうえで必要なことを提言していただくことが必要。また障害福祉計画など、市の事業等についてこの協議会を協議の場として活用させていただくこともある。

○舵取りはやってもらえるのか。

○舵取りは運営会議で行っている。

○例えば医ケア児の会議を行う中でいろいろな子供の問題を持ってくるが、それでどういう形を目指すのか見えてこない。体制づくりまで求められているのか、問題だけもってくるのか、その舵取りはしてもらえるのか。

○部会長や各作業部会のリーダーが司会者として取り回しをして部会で話し合い、決められることは決め、運営会議等へ上げることは上げている。運営会議や本会議で報告し、いろいろ意見をいただくことがあるので、方向性を決めるところである。

○長いスパンで固めていけば良いという事でよいか。

○良い。

○以前、小学校にいた時に、親御さんが会議に呼ばれていたが、会議の趣旨が分からなかった。どういう全貌だったのか知りたかった。

○昔の協議会は2つの部会と運営会議だけだった。そのような中で、初めて作業部会を立ち上げ、サポートブックを作った記憶がある。どんどん扱う事柄が増えていくにつれて、関係者を集めて広がっている。いろいろと自分のところで考えても、他の機関と繋がらないと実現できないので、できるだけ活用させていただきたい。

公だけでなく民間も入り一緒に解決することはたくさんある。貴重である。協議会だけ

でなく、いかに提言し市の施策につなげることができるかが重要だと思う。

- 医ケアのシステムづくりも作業部会から話があったもの。さらに詳しい仕組みづくりを始めるところ。ネットワークは３回、拠点２回、障害児支援も２回、その間に部会も全４回ある。さらに災害時対応も今後協議していきたいと考えている。これから２年間、御協力をお願いします。